

大阪高体連サッカー部 公 式 記 録	会場責任者	主審サイン
	中岡 左津記	藤川 真也

両チームのシステムはともに1-4-4-2。星翔は守備ラインを自陣に置き、追手門にできるだけ侵入されないように守備ブロックを作る。追手門は前半5分CKのこぼれ球を④が反応し早い段階で先制点を奪う。星翔はその後最終ラインを自陣に①と守備ブロックの形成を行うが、ファーストDFの決定がされず前線との守備ラインの距離が間延びし、なかなかボールを奪えない。対する追手門はFW①太田、⑥草水2人を起点に両サイドハーフ⑧堤、⑯山下がうまく関わり多彩な攻撃を繰り広げ、星翔の守備をかいくり多くのチャンスを生み出す。10分にCKで追加点、その後2点を奪い前半を折り返す。後半に入り、星翔は前線からの守備に切り替え、相手自陣でボールを奪うことが増えチャンスを作り出す。また、自陣からマイボールを大事に繋ぐ意識も高かった。追手門は後半に入りメンバー変更を行うが、前半のようなチャンスはなかったものの、後半25分に追加点。32分に⑦のクロスから③がうまくあわせて6点目を奪う。後半勢いのあった星翔も意地を見せ⑯江後がドリブルシュートで1点を奪い返すも、6ー1で追手門が勝ちバスト4進出を決めた。惜しくも負けた星翔高校は最後まで諦めず戦い抜いた。もう少し後半のようなプレスがかかればチャンスをものにできたはず。今後に期待したい。追手門は決勝リーグでも持ち前の攻撃力を存分に発揮してもらいたい。